

CHUBU

取扱説明書（保証書付）

型式

DL30SAB

I Hコンロ

- 安全に正しく使っていただくため、お使いになる前に必ずこの取扱説明書をよくお読みください。
- 十分に理解されるまでお使いにならないでください。
- この取扱説明書はすぐに取り出せるように大切に保存してください。
- この取扱説明書で「警告」は守らないと重大な人身事故の可能性があることを示し「注意」は守らないと中程度、または軽傷の人身事故の可能性があることを示します。
- 仕様および外観は性能向上のため予告なく変更する場合があります。

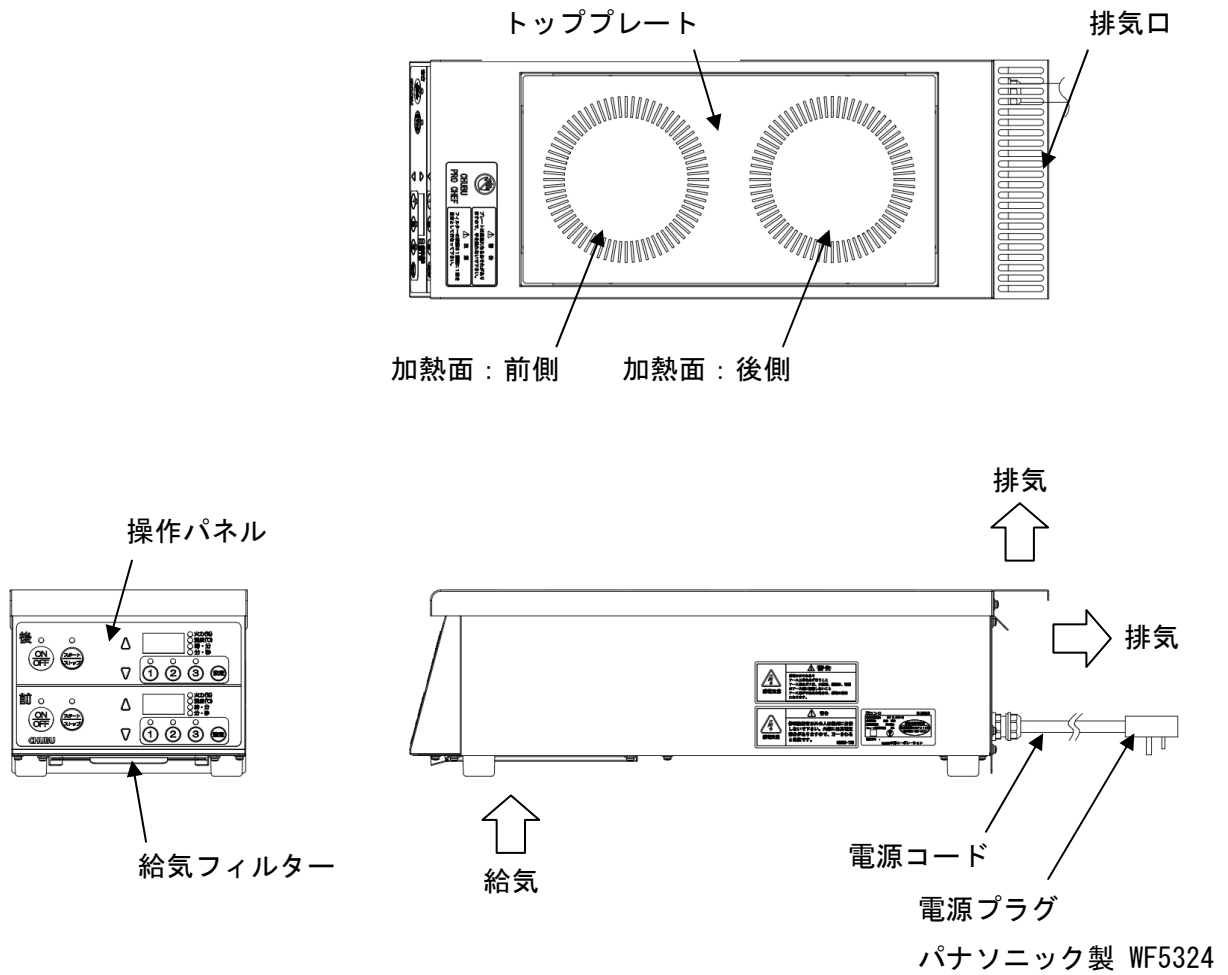
もくじ

1	各部の名称	1
2	安全のため必ず守ってください	2
3	設置および使用前の準備	7
4	使用方法	9
5	日常の点検とお手入れの方法	13
6	消耗品の紹介	14
7	故障の見分け方と処置方法	15
8	仕様	16
9	保証とアフターサービスについて	16

株式会社 **中部コーポレーション**

1

各部の名称





付属品

- ・取扱説明書（保証書付き）




2 安全のため必ず守ってください

- ご使用になる前に、この「安全のご注意」をよくお読みの上正しくお使いください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ず守ってください。
- 表示と意味は次のようになっています。

	警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が、想定される内容を示します。
	注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、 <u>物的損害</u> の発生が、想定される内容を示します。*

* 物的損害とは、家屋・家財および家畜ペットにかかわる拡大損害を示します。

図記号の例

 注意	▲は注意(危険・警告を含む)を示します。具体的な注意内容は、▲の中や近くに絵や文章で示します。
 分解禁止	⊘は、禁止(してはいけないこと)を示します。具体的な禁止内容は、⊘の中や近くに絵や文章で示します。
 プラグを抜く	●は、強制(必ずすること)を示します。具体的な強制内容は、●の中や近くに絵や文章で示します。

警 告

- お手元に届いたら、すぐに運送上の損傷がないかチェックすること
もし、損傷があれば運送会社へ損傷の状況を（梱包の箱と共に）連絡してください。損傷のまま使用しますと、感電、火災、ケガ等の原因となります。



損傷確認

- アース工事を必ず行うこと
アース線はガス管、水道管、避雷針電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は、感電の原因となります。
(電気工事業者によるD種設置工事が必要です。)



アース工事

- 本製品 1 台につき 1 個の高周波対応漏電遮断器（地絡過負荷・短絡保護兼用形）感度電流 30mA を以下のように設置すること
本製品（3 kW）については、定格 20 A 以上の漏電遮断器を以下の設置例のように設置してください。

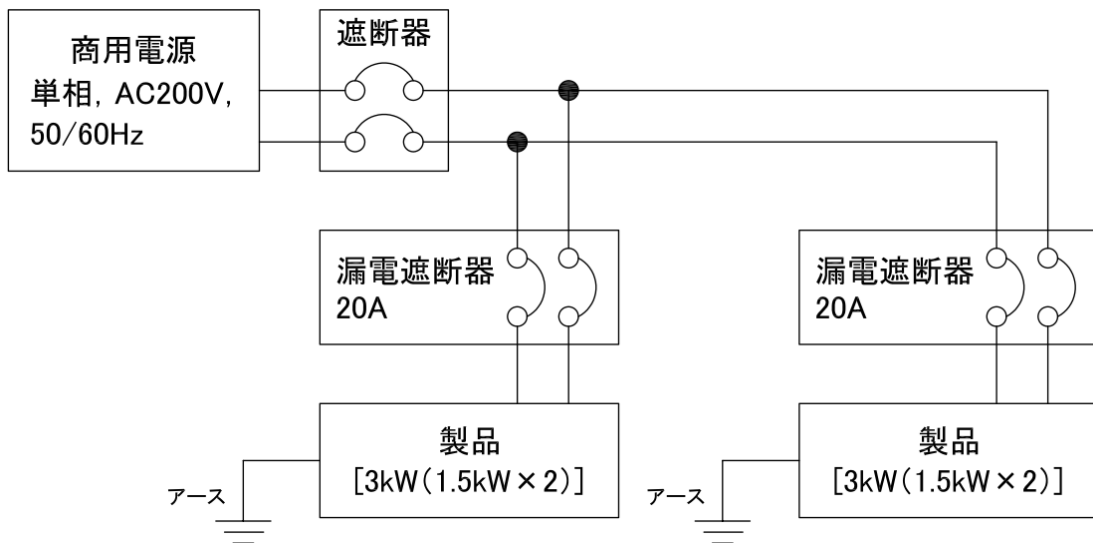


漏電遮断器設置

遮断器，漏電遮断器は、配電盤内に設置し配線してください。

アースはD種接地工事を施工してください。

設置例



- 電源は専用電源を使用すること

電源コードは途中で接続したり、延長コードの使用、およびタコ足配線をした場合には、感電や発熱、火災の原因となります。（電源を入れる前に供給されている電圧が装置の規格と合っているか確認してください。）



専用電源

- 屋外で使用しないこと

雨水のかかる場所で使用されますと、漏電、感電の原因となります。



屋外禁止

- 本製品は子供だけで使わせないでください

感電、ケガの原因となります。













禁止

- 電源コードを傷つけたり、汚さないこと

加工したり、引っ張ったり、たばねたり、重いものを載せたり、はさみ込んだり、また汚したりすると電源コードが破損し、感電、火災の原因となります。



禁止

-
- | | |
|---|--|
| <p>●電源プラグ接続部にほこりなど汚れが付着していないか、また、しっかりと接続されているか定期的に確認すること
汚れが付着したり接続が不完全な場合は、感電、火災の原因となります。</p> | 
点検掃除 |
| <p>●濡れた手で電気部品に触れたり、元電源を操作しないこと
感電、ケガの原因となります。</p> | 
濡手禁止 |
| <p>●元電源（漏電遮断器）がOFFに作動した場合や異常時は、運転を停止し、元電源を切って、すぐに販売店へ連絡すること
異常のまま運転を続けると感電、火災の原因となります。</p> | 
連絡 |
| <p>●作業専門者以外の方は絶対に分解したり、修理しないこと
異常動作してケガをしたり、修理に不備があると感電、火災などの原因になります。</p> | 
分解禁止 |
| <p>●トッププレートは高温になりますので触れないこと
使用后しばらくは、鍋の熱でトッププレートが熱くなっていますので、触れないでください。</p> | 
接触禁止 |
| <p>●トッププレートに衝撃を加えないこと
トッププレートはガラスですので衝撃を加えると割れます。
トッププレートにひびが入ったり、割れた場合は、販売店に連絡してください。
そのまま使用すると、異常動作や感電の原因となります。</p> | 
禁止 |
| <p>●運転中は製品の使用場所から離れないこと
温度が急上昇し、発火する恐れがあり、火傷、火災の原因となります。</p> | 
禁止 |
| <p>●鍋の底に物を敷いて運転しないこと
鍋の底に紙や布などの物を敷くと鍋の熱でその物を焦がすことがあります。
また、それによって故障の原因となる場合があります。</p> | 
禁止 |
| <p>●鍋の空焚きをしないこと
空焚きをすると鍋が急激に温度上昇するため、火傷、火災の原因になります。
また、それによって製品内部も高温となるため故障の原因になる場合があります。</p> | 
禁止 |
| <p>●鍋の無い状態で運転しないこと
不意な加熱により、火傷、火災の原因になります。</p> | 
禁止 |
-

-
- 調理用プレートが長時間高温になる焼き物調理や炒め物調理をしないこと
グリルプレートなどの調理用プレートを使用した焼き物や炒め物調理で、
プレートの温度が長時間高温になる場合は、製品内部も高温となり
故障の原因になる場合があります。



禁止

-
- 水、油等の液体につけたり、かけないこと
火災、漏電、感電の原因となります。
また、ふきこぼれ等の場合は元電源を切り、拭き取ってください。



禁止

-
- 心臓用のペースメーカーをご使用の方は、使用に注意してください。
心臓用のペースメーカーをご使用の方は、専門医師とよく相談の上、影響の
ないことを確かめてからご使用ください。



注意



注 意

-
- 丈夫で平らな所に水平になるように据え付けること
据え付けに不備があると転倒、落下によるケガなどの原因となります。



水平設置

-
- 1週間以上使用しない場合は、元電源を切ること
ほこりが溜まって発熱、発火の原因となります。



元電源切り

-
- 移設または廃棄は専門の業者か、販売店に依頼すること
据付不備や勝手に放置しますと、違法になったり、事故の原因となります。



専門業者

-
- 給気口、排気口をふさがないこと
給気口、排気口をふさいだり、すぐ側にものを置くと、製品内部の温度が高く
なり、故障の原因となります。



禁止

-
- 鍋はトッププレート加熱面の中央（円の中心）に置くこと
トッププレートの指定の場所からずらして加熱すると、出力がでない場合が
あります。



注意

-
- キャッシュカード・テレホンカード・自動改札用定期券などの磁気製品を近づけないこと
内容破損の原因となります。



注意

-
- 運転中に電磁調理可能鍋以外の金属をトッププレート上に置かないこと
電磁調理可能鍋以外の金属（缶類、ナイフ、スプーン等）を運転中にトッププレート上に置くと加熱してしまいます。
火傷等の危険がありますので絶対にしないでください。



禁止

-
- 液体中に固形物や粘度の高い調理物、凍った食材などが含まれた状態で加熱を行う場合は焦げ付きに注意してください
固形物や粘度の高い調理物、凍った食材などは液体中であっても鍋底に密着した状態が続くと焦げ付きや鍋の異常加熱の原因となりますので、加熱中はよくかき混ぜるか、鍋底に密着させないための底上げ器具（底上げ網やスプースポーターなど）を使用してください。



注意

-
- オイルミストが多く発生する環境での使用は避けること
製品内部が汚れることにより、予期せぬ動作や故障の原因になります。



禁止

-
- 液体加熱時は急激な沸騰に注意すること

水・だし汁・みそ汁・牛乳・カレーなどの液体を加熱した際、急激な沸騰（突沸）が起こり、液体が噴き出す、飛び散る、鍋が跳ねるといった現象が起こる可能性があるため、火傷、ケガ、トッププレート破損などの原因になります。液体を加熱する際は、かき混ぜながらご使用ください。



注意

3 設置および使用前の準備

- 据付工事は専門業者に依頼すること
お客様ご自身で据付工事をされ不備があると、火災、感電、故障の原因となります。
- 使用周囲温度範囲は5～25℃とすること
この温度範囲以外では、正常に動作しないことがあります。
- 元電源（漏電遮断器）が正しく接続されていることを確認すること
P 3 に示す内容で正しく接続されていることを確認してください。
- 湿気の多いところや、水がかかり易い場所に据え付けないこと
絶縁低下から漏電、感電の原因となります。
- 電源はP 1 6 「8 仕様」に示す規格に合うものを使用してください
使用前に供給される電圧が製品の定格と合っているかを確認してください。
- 電磁調理器使用可能鍋を使用してください
本製品は、鍋の形状・材質・大きさにより使用できない場合があります。
以下を参考にしてください。

使用できる鍋

鉄、鋳物、ステンレス（18-0, 18-10）製等、鍋底が磁石に吸い付き平らで、直径が12cm以上の鍋、または、電磁調理器用に製作された鍋。
※鍋底の直径が12cm以下や鍋底が平らでない鍋、電磁調理器用でも磁性が弱い鍋は、十分な加熱ができない場合があります。

注意

薄い鉄板等の鍋は、使用中にそる場合がありますので、なるべく厚手のものを使用してください。

使用できない鍋

ガラス、アルミ、銅、陶磁器、土鍋等の磁石に吸い付かない鍋
アルミや銅鍋等に鉄を溶射した鍋

注意

使用できない鍋を使用すると、保護装置が作動し、「rP」が表示されて運転が停止します。

- 設置は、火災予防条例、電気設備に関する技術基準を定める省令第59条に従い設置してください。

注意

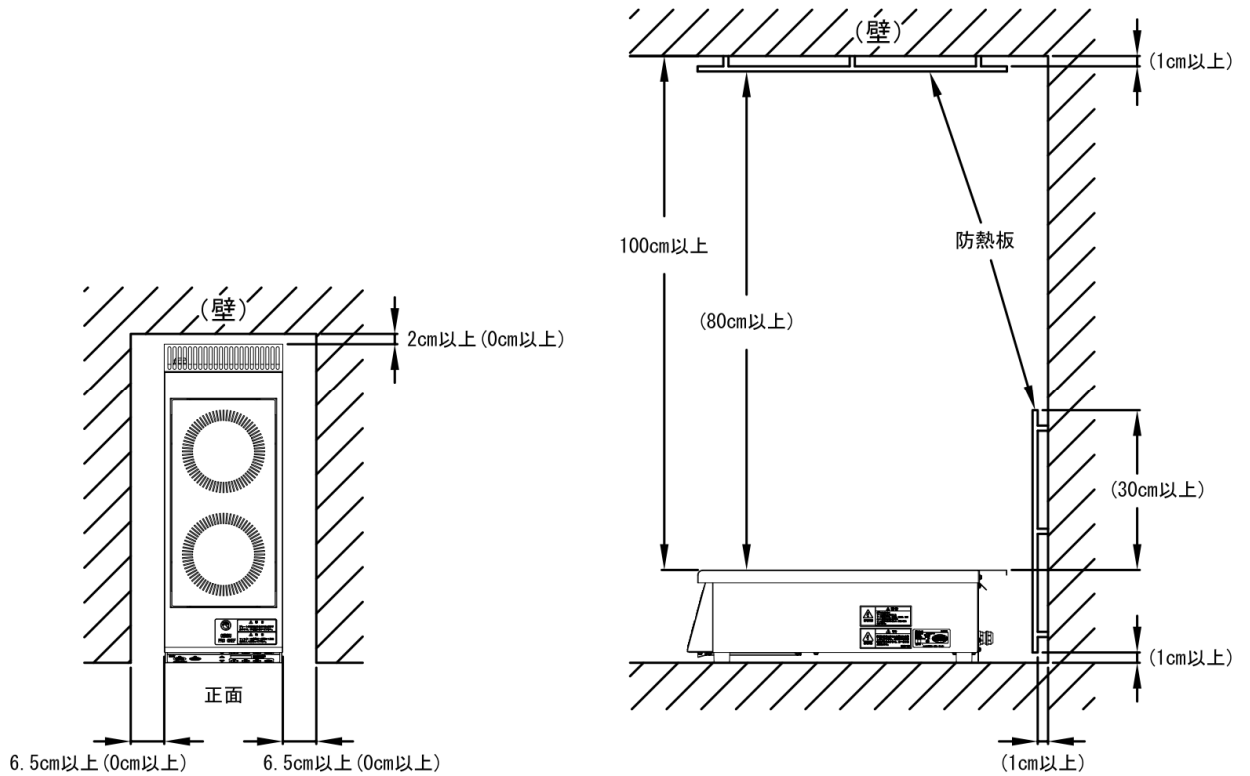
※トッププレートの上表面と上方の天井（又は棚など）は、100cm以上離れていること。

※製品の金属部がキッチン・建造物の壁中の金属（メタルラス・金属板など）などと接触しないように設置すること。

又は、製品の金属部がキッチン・建造物の壁中の金属（メタルラス・金属板など）などと接触する場合は、電氣的に接続しないよう設置すること。

※（ ）内の寸法は、不燃性の壁又は防熱板を取付けた場合です。

※防熱板の断熱性能については、室温35℃で製品を使用した場合に不燃性以外の壁の表面温度が100℃を超えないものとする。

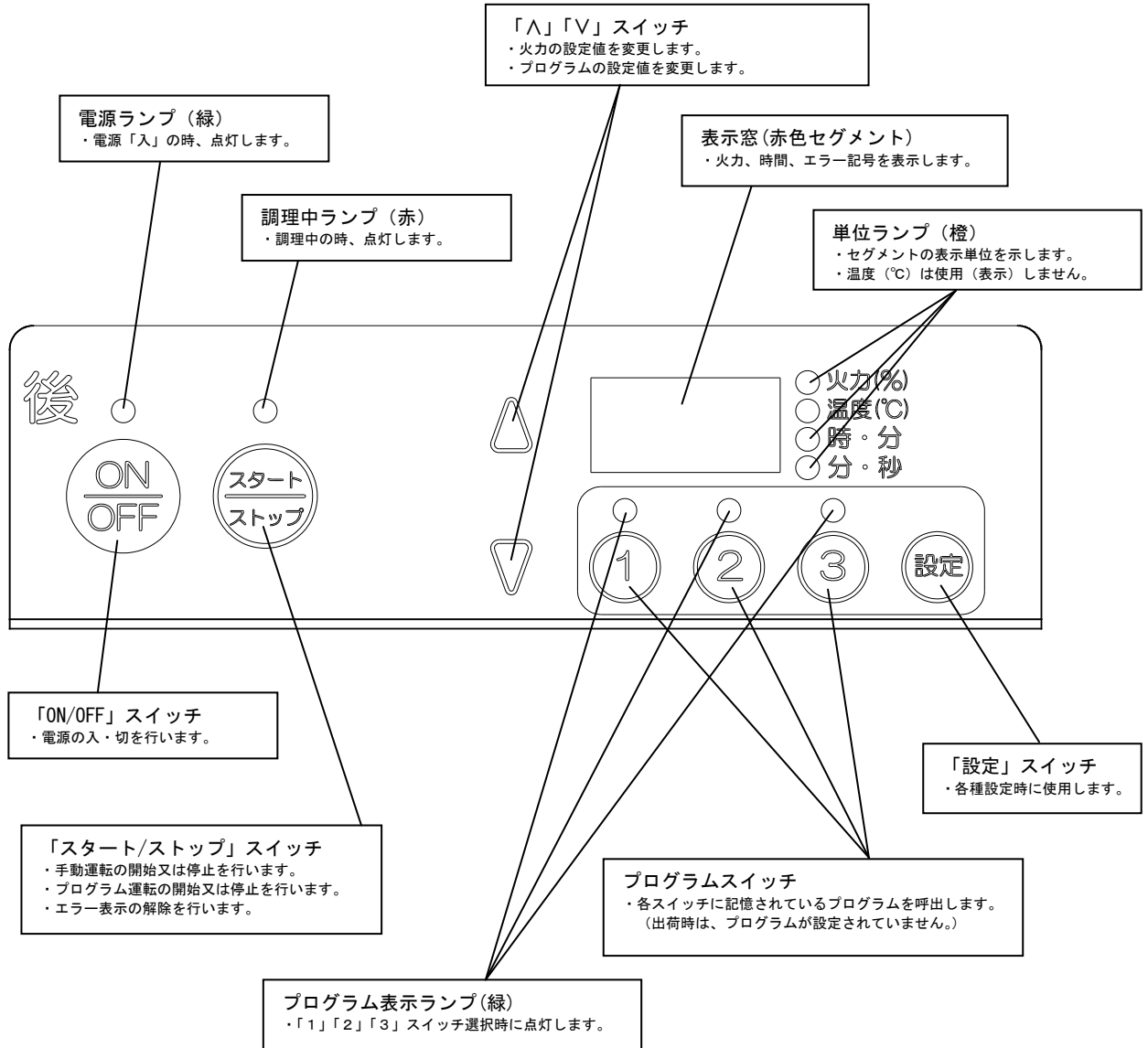


< 側面と背面のすき間 >

< 天井までの距離 >

4 使用方法

操作パネルの説明



※前も同じ

■手動運転

- (1) 元電源（漏電遮断器）をONにします。
- (2) **ON/OFF**スイッチを押し電源を入れます。
 - ・電源ランプ（緑）が点灯します。
- (3) 表示窓に数字が表示されているのを確認する。
 - ※「P1」～「P3」が表示されている場合は、選択されているスイッチ（プログラム表示ランプが点灯しているスイッチ）を押し手動運転へ切り替えてください。
- (4) トッププレート加熱面の中央（円の中心）に加熱する鍋（P7の使用できる鍋に該当すること）を置きます。

注 意

鍋はトッププレート加熱面の中央に置くこと。

トッププレート加熱面の中央（円の中心）からずらして加熱すると、出力がでない場合があります。

注 意

運転中に鍋以外の金属等（缶類、ナイフ、スプーン等）をトッププレート上に絶対に置かないこと。

運転放置による保護機能はありませんので、運転中に金属を置くと予期せぬ加熱をしてしまいます。火傷等の危険がありますので絶対にしないでください。

- (5) **スタート/ストップ**スイッチを押すと運転が開始します。
 - ・調理中ランプ（赤）が点灯します。
- (6) **△** **▽**スイッチ又は**1** **2** **3**スイッチで火力（%）を調節します。
 - ・**△** **▽**スイッチを押すと1%単位で火力を変更できます。
（火力設定可能範囲：0%～100%）
 - ・**1** **2** **3**スイッチを押すと各スイッチに記憶された火力（%）へ変更できます。
（**1** **2** **3**スイッチの設定方法は、P12に記載されています。）
- (7) **スタート/ストップ**スイッチを押すと運転が停止します。
 - ・調理中ランプ（赤）が消灯します。
- (8) 使い終わったら **ON/OFF**スイッチを押し電源を切ります。

注 意

電源を切っても冷却用ファンが動作している場合があります。

冷却用ファンの動作が停止するまで元電源をOFFにしないでください。

- (9) 元電源（漏電遮断器）をOFFにします。

■プログラム運転（自動運転）

- (1) P 1 0の「■手動運転（1）～（4）」の要領で加熱する鍋を置きます。
- (2) 運転するプログラムが設定されたプログラムスイッチを押します。
 - ・ **1**スイッチの時「P 1」、**2**スイッチの時「P 2」、**3**スイッチの時「P 3」と表示窓に表示されます。
 - ・ 選択されたスイッチのプログラム表示ランプ（緑）が点灯します。
- (3) **スタート/ストップ**スイッチを押すと選択したスイッチに記憶されているプログラムに従って運転を開始します。
 - ・ 調理中ランプ（赤）が点灯します。
 - ・ 表示窓には各段階の残り時間が表示されます。
 - ・ 調理中に**設定**スイッチを押す毎に表示窓の表示が切り替わります。
 - ・ 運転中の段階名→火力→残りの調理時間→運転中の段階名
数秒間、何もしないと残りの調理時間表示に戻ります。
（プログラム設定方法は、次ページに記載されています。）
 - ・ 各段階終了時にブザーが鳴ります。
- (4) 全段階の運転が完了すると表示窓に「End」が表示されプログラム運転が終了します。
また、プログラム運転中に**スタート/ストップ**スイッチを押すと運転を強制終了します。
 - ・ 調理中ランプ（赤）が消灯します。
- (5) 使い終わったら**ON/OFF**スイッチを押して電源を切ります。

注 意

電源を切っても冷却用ファンが動作している場合があります。
冷却用ファンの動作が停止するまで元電源をOFFにしないでください。

- (6) 元電源（漏電遮断器）をOFFにします。

■ 1 2 3 スイッチ運転設定手順

- (1) 調理中ランプが消灯しているのを確認します。
 - ・ 運転中の場合は、運転を停止してください。
- (2) 設定する1~3のいずれかのスイッチを長押しします。
 - ・ 設定するスイッチのプログラム表示ランプ（緑）が点滅します。
 - ・ 以下 a. 又は b. を設定可能です。
 - a. 火力（%）固定値設定
 - ①表示窓に「P0」と表示されていることを確認してください。
 - ・ 「P9」と表示されている場合は△スイッチで「P0」に表示が切り替わります。
 - ・ 設定スイッチを押し②へ進みます。
 - ② 火力（%）固定値を変更します。
 - ・ △又は▽スイッチを押して火力固定値を変更します。
 - ・ 火力固定値は0%~100%まで1%単位で変更できます。
 - ③ 火力（%）固定値を記憶します。
 - ・ 設定スイッチを押して火力固定値を記憶します。
 - ④ 以上で火力（%）固定値が記憶され設定が終了します。
 - b. プログラム運転設定
 - ①表示窓に「P9」と表示されていることを確認してください。
 - ・ 「P0」と表示されている場合は△スイッチで「P9」に表示が切り替わります。
 - ・ 設定スイッチを押し②へ進みます。
 - ②表示窓に「- 1 -」と表示されます。
 - ③設定スイッチを押し④へ進みます。
 - ④火力（%）を設定します。
 - ・ △又は▽スイッチを押し、火力を設定します。
火力は0%~100%まで1%単位で変更できます。
 - ・ 設定スイッチを押し⑤へ進みます。
 - ⑤調理時間を設定します。
 - ・ △又は▽スイッチを押し、調理時間を設定します。
 - ・ 0(分).00(秒)~9(分).59(秒)、0(時間).10(分).~9(時間).59(分).まで設定可能です。
 - ・ 「設定」スイッチを押し⑥に進みます。
※0(分).00(秒)に設定するとその段階は運転されません
 - ⑥表示窓に「- 2 -」と表示されます。
 - ⑦以降同様に第5段階まで設定を行います。
 - ⑧設定が終了すると運転待機状態に戻ります。

5 日常の点検とお手入れの方法

1. 給気フィルターの手入れ

- (1) 電源を切り、製品が十分に冷えている事を確認してください。
- (2) 給気フィルターのつまみを持ち、手前に引き出してください。
- (3) 中性洗剤で浸け置き洗いをしてください。
- (4) 自然乾燥させた後、逆の手順で組付けてください。

注 意

- ・ 給気フィルターの手入れは1週間に1回を目安として必ず行ってください。
- ・ 使用環境が悪い場合や使用頻度が多い場合は、手入れの回数を増やしてください。
- ・ 給気フィルターの無い状態や、目詰まりした状態、濡れたままの状態での運転をしないでください。故障の原因となります。

2. トッププレートの手入れ

トッププレート上が汚れた場合は、硬くしぼった濡れふきんで拭き取ってください。

注 意

- ・ トッププレートは常に汚れの無い状態で使用してください。
- ・ トッププレートに付着物が付いた状態で使用を続けると、出力が低下する場合があります。

6 消耗品の紹介

1. 給気フィルター

- ・ 給気フィルターの目詰まりが取れなくなった場合は、使用を中止して、販売店より新品を購入し交換してください。
- ・ 交換作業は、電源を切り冷却用ファンが停止している事を確認した上で行ってください。

2. トッププレート

- ・ トッププレートは衝撃・空焚きなどにより劣化します。
劣化時期は使用状況により異なります。
- ・ ひび割れ・破損及びトッププレート接着剤の劣化などが発生した場合は、直ちに使用を中止して、元電源（漏電遮断器）をOFFにしてください。
- ・ 販売店より新品を購入し交換してください。
- ・ 交換作業は、元電源（漏電遮断器）をOFFにし、元電源（漏電遮断器）から製品に通電していないことを十分確認した上で行ってください。

3. 冷却用ファンモーター

- ・ 通常は3年を目安として新品と交換してください。
- ・ 交換作業は、作業専門者が行う必要がありますので販売店に連絡してください。

7 故障の見分け方と処置方法

以下の処置方法を行っても直らない場合や、以下以外の症状が発生した場合は、漏電遮断器を OFF にし、販売店に連絡をしてください。1年以内であれば無償、それ以降は有償にて修理いたします。

症状	原因	処置方法
表示窓に何も表示されない	電源プラグが外れています。	電源プラグを接続してください。
	漏電遮断器が OFF になっています。	漏電遮断器を ON にしてください。
	電源が OFF になっています。	電源入/切スイッチで電源を ON してください。
表示窓にOHまたはbHと表示されている	インバータが異常温度上昇しました。	温度が下がるまで「加熱/停止」スイッチを押して解除されるまで) 運転をしないでください。また、フィルターが目詰まりしている可能性がありますのでフィルターを清掃してください。
表示窓にCHと表示されている	加熱用コイルが異常温度上昇しました。	
表示窓にPHと表示されている	トッププレートが異常温度上昇しました。	温度が下がるまで「加熱/停止」スイッチを押して解除されるまで) 運転をしないでください。また、空焚き等で被加熱物の温度が高くなっていることがありますので注意してください。
表示窓にLUと表示されている	機器に必要な電源電圧が低い。	正しい電源を使用してください。
	瞬時停電が発生しました。	「加熱/停止」スイッチを押すと解除されます。
表示窓にOUと表示されている	機器に必要な電源電圧が高い。	正しい電源を使用してください。
表示窓にrPと表示されている	鍋が置かれていない。	「セット」スイッチを押すと解除されます。 トッププレート加熱面の中央(円の中心)に使用できる鍋を置き、運転を開始してください。
	鍋が正しい位置に置かれていない。	
	使用できない鍋を使っている。	
表示窓にErEと表示されている	制御用メモリーに異常が発生しました。	漏電遮断器をOFFにし再度ONにして、電源を再投入してください。 ※改善されない場合は販売店に連絡してください。
表示窓にErUと表示されている	制御用CPUに異常が発生しました。	
表示窓にErEと表示されている	通信制御に異常が発生しました。	
表示窓にLUUと表示されている	制御用電圧に異常が発生しました。	
表示窓にoFrと表示されている	出力(周波数)制御に異常が発生しました。	
表示窓にoCと表示されている	加熱用コイルに過電流が発生しました。	販売店に連絡してください。
表示窓にoPPと表示されている	トッププレート用温度センサーが断線している。	
表示窓にoPFと表示されている	インバータ用温度センサーが断線している。	
表示窓にoPCと表示されている	加熱コイル用温度センサーが断線している。	
表示窓にoPLと表示されている	加熱用コイルが断線している。	
表示窓にErFと表示されている	冷却用ファンに異常が発生しました。	
本体のケースに触るとピリピリと不快な感触がある	コンセントにアース線が接続されていない。	コンセントにアース線を接続してください。
	コンセントに接続されているアース線が断線している。	コンセントに接続されているアース線の点検を専門業者に依頼してください。
運転中に突然停止し再加熱できない	本体の故障	販売店に連絡してください。
	タッチパネルの故障	

8 仕様

型式	外形寸法 (幅×奥行き×高さmm)	電源	定格消費電力	質量
DL30SAB	230×620×180	単相, AC200V, 50/60Hz 電源容量: 3.4kVA	3kW (1.5kW×2)	14kg

9 保証とアフターサービスについて

保証期間は、本体お買い上げ日から1年間です。

保証期間中は、保証書の規定に従って、無償修理させていただきます。

保証期間後は、診断して修理できる場合、ご要望により、有償で修理させていただきます。

有償修理につきましては、修理費用は、事前に見積金額として提示させていただきます。

修理費用は、技術料+部品代+出張料(運送費)で構成されております。

保証期間1年を経過した商品の修理後の保証につきましては、修理箇所についての保証のみで、修理品お届け後3ヶ月です。修理箇所以外で発生した故障につきましては、有償の修理となります。

保証期間中においても、有償修理となる例

- ① 外力による破損(トッププレートの破損、等)
- ② 製品の設置環境が本取扱説明書に記載された条件を逸脱して使用された場合
- ③ 電源系統に落雷、電気工事などで、異常電圧が発生し故障した痕跡のある場合
- ④ 給気フィルターの目詰まりによる異常の履歴がある場合(故障履歴が記録されます)
- ⑤ 高温(200℃以上)の油などの飛散によるトッププレート接着材の損傷による故障
- ⑥ 製品の内部に水などの浸入が認められる場合

交換部品

部品名	標準交換時期	交換方法
給気フィルター	目詰まり発生時	新品と交換
トッププレート	劣化発生時	新品と交換
冷却用ファンモーター	3年	調査の上交換
加熱コイル	5年	調査の上交換
ヒューズ	10年	新品と交換

保証書

品名	I Hコンロ
型式	DL30SAB
お買上日	※ 年 月 日
保証期間	1年
お客様の住所	※
お名前	※
販売店名住所	※

※必ず各欄をご記入ください。

- 保証期間内でも次のような場合には有償修理となります。
 - 誤った使用目的・使用方法・改造・不当な修理による故障または損傷。
 - 落下・引っ越し・輸送などによる故障または損傷。
 - 火災・地震など天災地変ならびに公害や異常電圧その他の外部要因による故障または損傷。
 - 消耗品の交換(消耗品とは、給気フィルター・トッププレート・冷却用ファンモーター)
 - 保証書のないもの
 - 保証書の*印欄に記入のないもの。あるいは字句を書き換えられた場合
- 保証期間後は、修理できる製品についてご希望により有償修理いたします。
- 保証書は紛失されても再発行いたしません。
- 保証書は日本国内で使用される場合のみ有効です。
(This warranty is valid only in Japan.)
- 保証期間の内外に関わらず、機械の故障により発生した業務上の保証(操業保証)はいたしません。

※印欄に記入のない場合は無効となりますから必ずご確認ください。

この保証書は、本書記載内容で無償修理を行うことをお約束するものです。

お買い上げの日から左記保証期間中に、取扱説明書、本体ラベルその他の注意書きに従った正常な使用状態で故障した場合には、本書記載内容にもとづき、お買い上げの販売店が無償修理いたしますので、商品とこの保証書をご持参ご提示の上、お買い上げ販売店にご依頼ください。

CHUBU

株式会社中部コーポレーション


〒511-0944 三重県桑名市大字芳ヶ崎字堂ヶ峰1533-1

●修理メモ

アフターサービスについて

- 保証書はお買い上げの販売店でお渡しします。記載内容をご確認の上大切に保管してください。紛失されても再発行はいたしません。
- 保証書にお買い上げ日、販売店など所定事項の記入がないと有効とはなりません。記入がないときはすぐにお買い上げ店にお申し出ください。
- 万一、故障した場合には、保証期間中は保証書の記載内容に準じて無償修理をいたします。
- 詳細は保証書をお読みください。
- 保証期間内の修理などアフターサービスについてご不明のときは、お買い上げの販売店、または、最寄りの各営業所までご連絡ください。

●長年ご使用の厨房・調理機器の点検を！

<p>愛情点検</p> 	<p>こんな症状はありませんか？</p> <ul style="list-style-type: none">●スイッチを入れても運転しないことがある。●運転中に異常な音や振動がする。●いつもより製品が熱くなる。●こげ臭いにおいがする。●電源コードを曲げると通電しないことがある。●触れるとビリビリ電気を感じる。●その他の異常・故障がある。	<p>ご使用中止</p> <p>故障や事故防止のため、電源プラグを抜く、またはブレーカーを切り、販売会社に点検・修理をご相談ください。</p>
--	--	---

CHUBU 株式会社 中部コーポレーション

フード機器事業部 / 三重県桑名市大字芳ヶ崎字堂ヶ峰 1533-1 〒 511-0944

東京 / TEL 03 (5833) 9968 大阪 / TEL 06 (6788) 2251
中部 / TEL 0594 (32) 1130 福岡 / TEL 092 (474) 1312